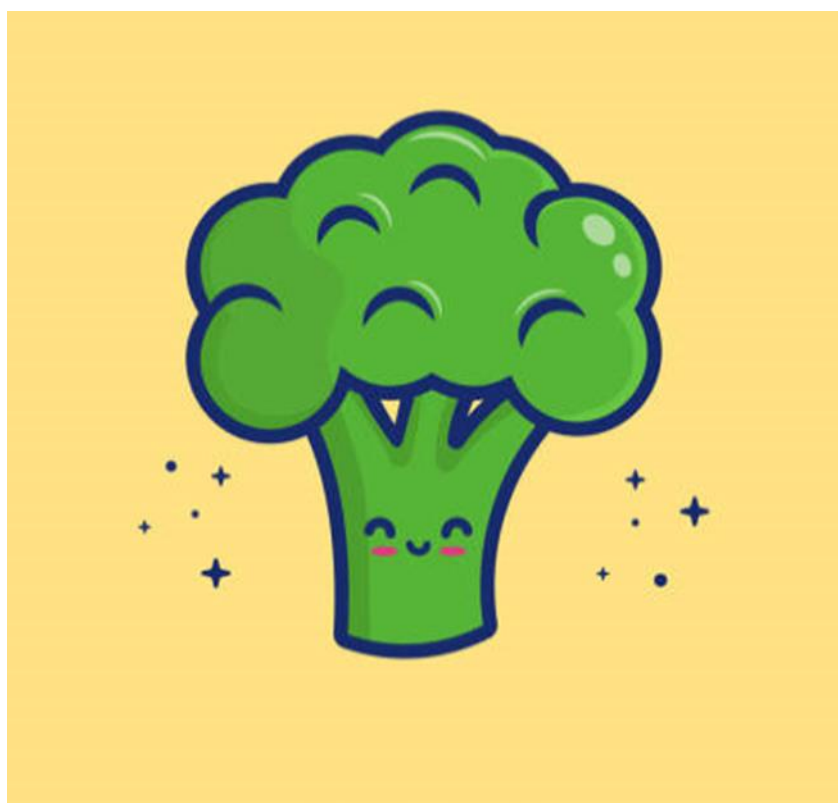


鶴田町振興作物（ブロッコリー）の

ス ス メ

— 鶴 田 町 —



○鶴田町振興作物とは？

鶴田町では、町農業生産力の向上と経営の安定を図るため、町が指定する作物（振興作物）の作付けを行う農業者に対し、補助金を交付し支援をおこなっています。

鶴田町の振興作物は、『収益性が高く、主力作物の支障とならない作物』であるブロッコリーで、これらの新規作付および規模拡大に対し、補助金を交付します。

ブロッコリー

【経営指標の目安】

- 標準経営所得：経費差引後 **12.2万円**／10アール（所得率34%）
- 標準労働時間：94時間（12日*）／10アール
*8時間で1日と換算した場合

（H29年3月発行 西北地域県民局地域農林水産部作成 野菜栽培の手引きより）

○交付対象者の要件（すべて満たす必要があります）

- （1）**鶴田町に住所を有する者**であること
- （2）本人及び世帯員に**町税等の滞納がない**こと
- （3）補助金交付後においても**肥培管理及び出荷を継続できる者**であること

○補助金額について

| 区 分 | 内 容 |
|------------------------------|---|
| ①新規作付事業 （新規に作付を行うもの） | 対象経費：初期投資費用 （種苗費、肥料農薬費、資材費） 補 助 率：4分の3（上限193,000円） 要 件：作付する面積が2アール以上 |
| ②規模拡大事業 （作付規模を拡大するもの） | 対象経費：拡大に伴う投資費用（新規作付と同様） 補 助 率：2分の1（上限129,000円） 要 件：規模拡大分面積が2アール以上 |

○申請方法

希望される方は役場 **産業課 農業振興班**へ事前にご相談ください。

その後、**申請書、経費を証明する領収書の写し**を提出のうえ、現地確認を経て交付決定し、交付となります。

I ブロッコリー

1 経営の特徴

- ・ 初期投資が少なく、栽培技術も比較的優しいため、初心者でも取り組みやすい。
- ・ 農協が共同育苗、共同選果を行っているほか、定植機の借り受けができる。
- ・ 植え付けから収穫までの期間が約2か月と短く、労働時間も比較的少ない。



○10aあたりの収益性

| 粗収益(円) | 経営費(円) | 所得(円) | 所得率(%) |
|---------|---------|---------|--------|
| 365,000 | 242,439 | 122,561 | 33.6% |

※単収750kg、価格487円/kgとした場合

出展:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)

○主な作業と10aあたりの労働時間

| 作 型 | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 9月 | | 計 |
|-----------|----|---|-----|---|-------|----|-----|---|----|--|----|--|----|
| 6・7月収穫 | | | 定 植 | | 追肥・防除 | | 収 穫 | | | | | | |
| 労働時間(10a) | 4 | 4 | 5 | 2 | 10 | 33 | 31 | 5 | | | | | 94 |

労働時間:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)から引用

2 作 型

| 作 型 | 特 徴 |
|--------|---|
| 6・7月収穫 | 4月中旬～5月上旬に定植し、6月上旬～7月上旬にかけ収穫。主力の水稲やりんごの作業と比較的競合しない。 |

3 主要品種

| 品種名 | 早晩性 | 特 性 |
|------|-----|--|
| すばる | 中早生 | 草姿は半開張型でコンパクト。花蕾は形の良い丸形になり締まりも良い。側枝の発生はやや多く早蒔きや多肥でいっそう多くなる。 |
| おはよう | 中早生 | 草姿は極立性で草勢やや強い。花蕾位置はやや低い、花蕾は小粒、濃緑色で極ドーム形、花蕾形状の安定性は高い。低温時のアントシアン発生がなく、茎の空洞症も少ない。 |

4 畑の準備

- ・ 完熟堆肥、土壌改良資材は定植約 10 日前に施用する。
- ・ 基肥は定植 7 日前に施用する。
- ・ 根こぶ病が発生すると収量が著しく減少するので、連作は避ける。

【施肥の例】10a 当たり

| 肥料名 | 基肥 | 追肥 | チッソ | リンサン | カリ | 備 考 |
|------------|-------|----|------|------|------|----------------|
| 完熟堆肥 | 3,000 | | | | | |
| 苦土炭カル | 140 | | | | | pH6.0～6.5必要量※1 |
| 化成肥料 4 8 4 | 100 | | 14.0 | 18.0 | 14.0 | |
| S 6 4 6 | | 60 | 9.6 | 2.4 | 9.6 | 又は N K ※2 |
| 合 計 | | | 23.6 | 20.4 | 23.6 | |

※1 新規畑では土壌分析に基づいて、マググリーン等を追加する。

※2 追肥に N K を使用する場合は葉ヤケに注意する。

5 定 植

(1) 栽植様式 (10a 当たり)

| 項目 作型 | 栽植様式 (1 条植え) | | | 128穴セルトレイ の必要枚数 | 品種名 |
|----------|--------------|------|-------|--------------------|----------|
| | うね幅 | 株間 | 栽植本数 | | |
| 6・7月収穫 | 75cm | 35cm | 3,810 | 30枚 | すばる、おはよう |

- ・ 定植は本葉 3～4 枚 (は種後 20～30 日頃) が適期である。
- ・ 定植作業は、曇りの風のない日や日射が弱くなる午後に行う。
- ・ 定植前にセルトレイ苗にかん水を行う。
- ・ 子葉が地上に出て、セルが土に埋まる深さに定植する。
- ・ 低温期の定植 (平均気温 10℃以下、最低気温 5℃以下) は、異常花蕾 (ボトニング) の発生リスクが高まるため、無理な早植えは避けるか、べたがけ等の保温対策を行う。



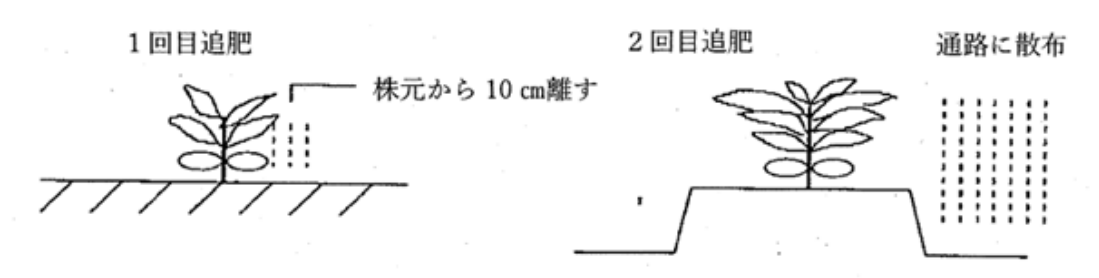
【異常花蕾：ボトニング】

葉数が少ない小株に花芽分化が起こり、
花蕾が極めて小さくなる

6 定植後の管理

(1) 追肥・中耕

- ① 第1回目は株元から10cm離して追肥し、雑草が多い場合は中耕する。
 - ② 第2回目は通路に散布し、除草のために管理機で土寄せを行う。
- ※ 定植30日以降は土寄せなど機械作業をなるべく行わないようにする。



【追肥回数・量】 (10a 当たり)

| 回数 | 肥料名 | 施用量 | 追肥時期 |
|----|------|------|--------------|
| 1 | S646 | 20kg | 定植7日～10日後 |
| 2 | S646 | 40kg | 定植30日後(土寄せ時) |

<ポイント>

- ① ブロッコリーは茎葉が大きいほど「花蕾」が大きくなるので、着蕾までに茎葉の生育を確保する。
- ② 着蕾期以降に肥効が強くなると異常花蕾（リーフィー等）が多く発生するので、追肥は遅れないようにする。



【異常花蕾：リーフィー】

花芽分化時の低温感応不足や花芽分化直後の高温、チッ素過多で、花蕾の中に小葉片が発生する。

(2) 病虫害防除

① コナガ・アオムシ

- ・ 降水量が少ないと発生量が多くなる傾向にある。
- ・ 発生状況に応じて、登録薬剤で防除を行う。特に老齢幼虫になると薬剤の効果が劣るので、卵及び若中齢幼虫のうちに、十分な薬液量を葉裏にもしっかり散布する。

【コナガの食害】



②軟腐病

- ・ 花蕾部に発生しやすく、発病部分はアメ色で水浸状に軟化腐敗する。葉に発生すると黄褐色の腐敗斑を形成し、悪臭を放つ。
- ・ 高温多湿、特に降雨が続いたときに多発しやすいため、降雨が続く場合は、登録薬剤で防除を行う。
- ・ 収穫後でも腐敗することがあるため、収穫時に発病果が混入しないよう注意する。



③根こぶ病

- ・ 晴天に地上部がしおれ、その後、外葉から枯れ始め、株全体が枯死する。
- ・ アブラナ科作物を連作すると発生が多い。また、気温や地温が高く、多雨の場合に被害が大きい。
- ・ 根こぶ病発生ほ場には作付しない。
- ・ 排水対策や土壌pHの矯正、定植ほ場の登録薬剤の土壌混和等で被害の軽減対策を行う。



7 収穫

- ・ JAの規格に応じて収穫を行う。
- ・ 花蕾が十分に発育し、花蕾群表面が一様になっている「開花直前」のものを収穫する。
- ・ 収穫は朝の涼しい時間帯に行い、品温が上昇する前に集荷場に搬入する。